

【事例報告】

朝倉地域観光案内のボランティア活動について

朝倉地域観光案内ボランティアの会 代 表 徳永 萬利氏

皆さま今日は、私は朝倉地域観光ボランティアの徳永萬利（かずとし）と申します。

朝倉地域観光ボランティアの概要ですが、H13年4月25日に10人で始めました。

現在、月一回定例会を開いています。構成は先程の九州国立博物館のデータとは逆で、男性6名、女性が4名で年齢は、63才～79才で全員60才以上です。朝倉地域には優れた自然環境に恵まれた飛鳥時代からの古代遺産、日本に類を見ない江戸時代の農業遺産があり、これらを見学に来られたお客さんにガイドをしています。喜んで帰っていただき“そんなに朝倉がよかところならば朝倉に住もう”と言って定住してもらうようになるのが究極の目的です。

具体的な活動ですが二つあります。①朝倉橘広庭宮と、②山田堰・三連水車です。三連水車ですが、水車は3連の他に2連水車が2基で、合せて7基あります。

まず朝倉橘広庭宮（あさくらたちばなのひろにわのみや）について、

当時の日本（538年・552年説：仏教伝来）に、倭国と親交が深かった百済からいろんな文化や仏教が入ってきます。1355年前の朝鮮は高句麗・百済・新羅そして中国は唐です。660年に百済が新羅と唐の連合軍に滅ばされますが、661年5月9日に百済からの救援要請に基づき、第37代斉明天皇・中大兄皇子、後の天智天皇・大海人皇子、後の天武天皇・鸕野讃良（うののさらら）皇女、後の持統天皇と一緒に引き連れて大本営が朝倉にやって来ます。これが朝倉橘広庭宮になるわけです。この時に大分の宇佐神宮から第15代応神天皇を勧請（かんじょう）して神社を造り、朝倉山天降（あもり）八幡と名付けられます。その後斉明天皇（～661年）と天智天皇（～671年）が亡くなられた後に、応神天皇も合わせて祀ったのが恵蘇八幡宮です。

（スクリーンの写真を説明）これが朝倉橘広庭宮です。倭国の時代です、奈良から難波、瀬戸内海を通り博多港・娜大津（なのおおつ）、磐瀬行宮、そして朝倉橘広庭宮に入ってきたようです。朝倉橘広庭宮のモニュメントがあり、朝倉橘広庭宮の碑と記されております。これは現在、須川にあります。右は恵蘇八幡宮です。

朝倉橘広庭宮にまつわるいろんなものが他にもあります。朝倉には関所がありましたので、関守の墓もあります。

次は全国に類を見ない農業遺産である山田堰について、

日本の三大暴れ川の一つである「筑紫次郎」の名を持つ筑後川から、取水した水を流す堀川をほり、周囲の水田を潤してお米を作るための「傾斜堰床式石張堰」の山田堰があります。

寛文3年（1663年）「千歳川より水を引き、横3間長さ9間に樋を掛けそれに土手を築き樋より水を圃に注ぎ田とす」と筑前国続風土記に書かれています。その灌漑面積は、当時は150町歩、現在は広がって652ヘクタールとなっています。

この暴れ川の筑紫次郎に目を付けられた方が一人おられます。それは中村哲先生です。

先生は最初ペシャワールでクリニックを開かれますが、食べ物や水が無く患者さんが死んで行くさまに耐えられず、井戸を掘られます。しかし井戸の水だけでは足りず、川から水を引くための堰を造らないといけないことに気付かれます。その後アフガニスタンにも行かれ、アフガニスタンの暴れ川クナール川から水を引くために堰を造りますが、造って造っても壊れます。「どうしたらいいのか」と悩んで、行き着いたところがこの山田堰です。

今日は後方に、山田堰のジオラマや資料を持っていますので、見ていただき参考にしていただきたいと思います。

（スクリーンの写真を説明）これはドローンで撮影したものです。水門を通り堀川を流れ水田を潤していく堰の状態です。中村哲先生が世界に紹介され、世界各地から治水・利水の勉強に大勢の方が訪れます。自分たちの国を背負って来ているので、皆さん真剣です。これは山田堰

に下りて説明をしているところです。英語で対応します。

水車は5年に1回造り替えます。

ガイドボランティアの際の課題・問題点は、山田堰にトイレがないことです。

堰や水路を管理している事務所でトイレを借りますが、こういうことは再三あり、実際困るのは私たちです。我慢してください、と言えませんので・・・。

トイレは、県道386号を挟んで反対側の高いところの恵蘇八幡宮の隣にありますが見学者は高齢の方も多く階段を登って行くのは大変です。先月の31日に市長との懇談会でも「トイレを何とかしてください」と訴えたところです。

次は会員の若返りの問題です。誰もが年を取って行きます。若い時から朝倉の郷土愛を如何にして育むか、と言う事が非常に重要ではないかと考えます。

朝倉地域は農業が盛んな所で、米を始め麦、博多万能ねぎ、柿、梨、ぶどう、いちじく（とよみつ姫）、林檎と多くの作物が栽培されており、野菜は何でもあります。非常に自然環境の豊かな処であると言えます。しかも農業に従事するひとは生涯現役と言う事があり、ボランティアになる人がいない、新会員を求める際の大きな障壁となっています。如何にして朝倉地域の人たちにこの朝倉橘広庭宮や山田堰・水車が素晴らしいかを知っていただくかが課題です。

朝倉には4人の天皇が訪れ、百人一首が残されておりますが、天智天皇の「秋の田の かりほの庵の 苫をあらみ わが衣手は 露にぬれつつ」が有名です。こういった歴史や文化を、お父さん、お母さんが子ども達に説明し、子ども達はそれを聞く。また、子から子へ伝承していくことが必要ではないだろうかと痛切に感じています。

3番目の問題ですが、ボランティアの知識レベルの向上が課題です。

定例会で順番を決めて勉強会を始めたところで、外部の勉強会、研修会にも参加しています。海外から多くの方が来られますので、言語は英語です。語学力ある若手会員の育成が急務です。先日来られたカメルーンの方（50歳代）は、国の中枢の方で国を背負って来ていますので、非常に真剣に聴かれます。一つ一つがお互い真剣勝負です。

実施の勉強は、まず朝倉地域の現況・状態を日本語で十分理解したうえで、英語に直さないといけません。山田堰と水車は其々独特の言葉が出てきます。例えば堰はストーン・ペイブド・スロープド・サーフェス・ダイバージョン・ウエイア (Stone Paved Sloped Surface Diversion Weir)、三連水車はスリー・コネクティッド・ウオーターフィール (Three connected waterwheel)と言います。国によって発音が違いますし非常に難しく、お互いに質問をし合いながら集中して勉強しています。

ガイドは普通戸外で行いますので、天候に左右されます。今年の夏は炎天下35℃でしたので、室内でスライドやビデオで説明をしたのち現場に行くようにしました。学校での出前授業は視聴覚機材を使って室内でします。先日9月27日の夜、滝のような雷雨となりましたが、3ヶ月も前から予約を頂いていた大阪泉南市のご夫婦は断るには忍びず、恵蘇八幡宮の社務所を借りて説明をしました。夫婦で一生懸命に聴いていただき、大変喜んで帰られました。

ボランティアの定義から、これまでお金は一切貰わず私たちの会費だけで活動してきましたが、色々事情があり、ガイド料として1人300円を頂くことにしました。今後はますますレベルアップしないと行けないと、話し合ったところです。

最後の課題ですが、行政との連携の強化が必要であると考えます。

朝倉市は平成18年に甘木市、朝倉町、杷木町が合併して生まれました。旧甘木市内にある秋月は800年の歴史あるまち、温泉も有る旧杷木町と合併したことで、これを一体化する仕掛けを考えれば観光面でもっと活性化していくと思います。今日は朝倉市商工観光課から参加いただいております、今後も行政と連携を図りながら進めて行きたいと思っています。

ご清聴、どうもありがとうございました。